

第16回 埼玉県高齢者福祉研究大会 繋がるっていいね、介護の未来へ快GO! ～みんなで紡ぐ思いやりの輪～ 報告書



- 主催 一般社団法人埼玉県老人福祉施設協議会
- 共催 社会福祉法人埼玉県社会福祉協議会
日本介護福祉士養成施設協会埼玉県介護福祉士養成校連絡協議会
- 後援 埼玉県、さいたま市、さいたま市社会福祉協議会、さいたま市老人福祉施設協議会、
埼玉県介護老人保健施設協会、埼玉県在宅福祉事業者連絡協議会、埼玉県認知症
グループホーム・小規模多機能協議会、埼玉県社会福祉士会、埼玉県介護福祉士会、
埼玉県介護支援専門員協会、認知症の人と家族の会埼玉県支部、埼玉の老人福祉
を考える会、介護労働安定センター埼玉支部、埼玉県社会福祉法人経営者協議会、
埼玉県高等学校福祉教育研究会
- 協力 読売新聞東京本社さいたま支局、埼玉新聞社、産経新聞さいたま総局、
朝日新聞さいたま総局、共同通信社さいたま支局、時事通信社さいたま支局、
東京新聞さいたま支局、毎日新聞さいたま支局、日本経済新聞社さいたま支局、
NHKさいたま放送局、テレ玉、FM NACK5

目次

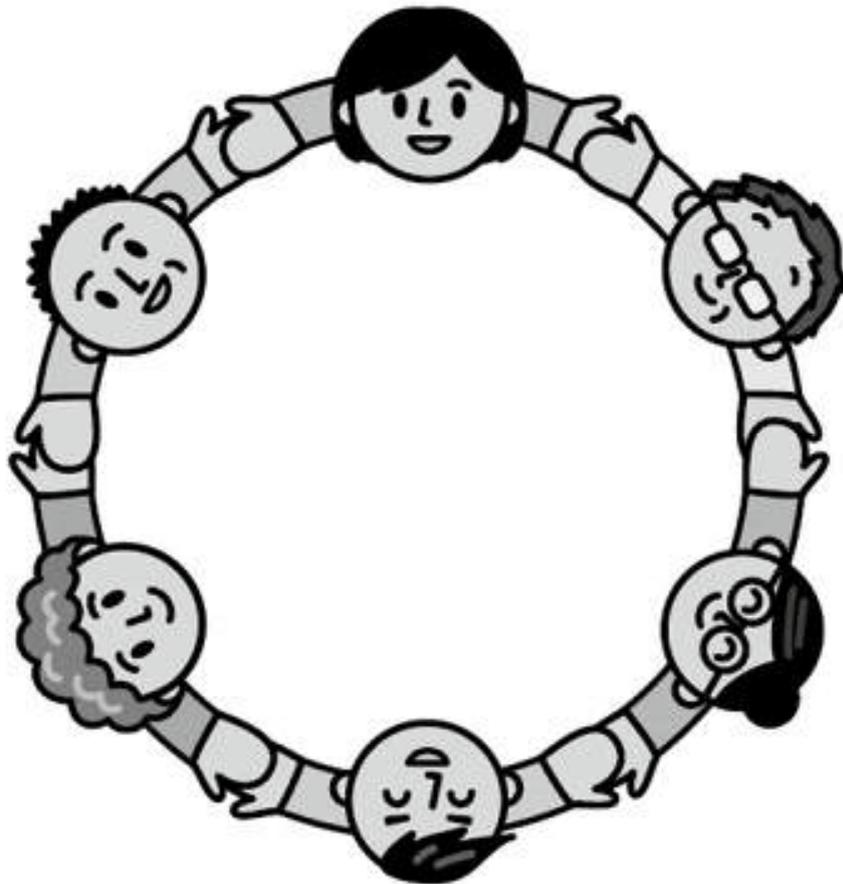
- 趣旨・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
- プログラム・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2
- ①開会式・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3
 - ・開会の言葉
 - ・主催者挨拶
 - ・来賓挨拶
- ②特別講演・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・8
- ③研究発表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・9
- ④埼玉県老人ホーム入園者創作品展・・・10
- ⑤閉会式、賞状授与式・・・・・・・・・・・・・・10
- ⑥企画運営委員会紹介・・・・・・・・・・・・・・11

開催趣旨

繋がるっていいね、介護の未来へ快GO！
～みんなで紡ぐ思いやりの輪～

当たり前だった生活が一変したコロナ禍。私たち介護の現場も乗り越えなければならないさまざまな課題に直面しました。この困難な時期を乗り越えることができたのは、共に考え、励ましあえる「仲間」がいたからです。私たちは、これからも仲間とともに「思いやりの心」「互いを理解し認め合う心」を大切に、多様性が増すこれからの社会を皆で支えていくことや、「介護に従事するすべての職業は、その存在そのものが価値を持つ仕事である」ことを発信し続けていきたいと考えています。

今回の大会が、県民や福祉関係者、福祉を志す様々な世代の方々と共に、直接対話し、共感し、学び合える貴重な機会となることを願い、介護の未来を切り拓く場所となるよう期待し開催いたします。



プログラム

開催:令和6年9月5日(木)

大会会場:ソニックシティ(さいたま市大宮区)

来場者数:525人

【プログラム】

9:30	10:00	10:30	12:00	12:45	14:15	14:30	16:00	16:30
受付	開会式	実践・研究成果発表 第1会場 (小ホール)	休憩	実践・研究成果発表 第1会場 (小ホール)	休憩	特別講演	閉会式 表彰式 (実践・研究 成果発表) (創作品展)	
		実践・研究成果発表 第2会場 (国際会議室)		実践・研究成果発表 第2会場 (国際会議室)				
介護用品展・創作品展 (市民ホール)								



①開会式

【開会式プログラム】

- ①開会のことば
- ②主催者挨拶
- ③来賓あいさつ
- ④大会役員紹介

【開会のことば】
企画運営委員会副委員長 釜田 幸弘



皆さん、おはようございます。
埼玉県高齢者福祉研究大会 企画・運営委員会 副委員長の釜田と申します。
本日は、たくさんの方々にご来場いただき誠にありがとうございます。

さて、今大会は「繋がるっていいね。介護の未来へ快GO！～みんなで紡ぐ思いやりの輪～」をテーマとして開催いたします。

これまで新型コロナウイルスの影響によりオンラインでの開催が続きましたが、その間私たちは職種を問わず、新型コロナウイルスの脅威に立ち向かいながら、それぞれが与えられた職責を全うし、幾多の困難を乗り越えてきました。これは共に励ましあえる仲間がいたからこそできたものと思います。

今後も私たちは、素晴らしい「仲間」と共に、「思いやりの心」「互いに認め合う心」を大切にして前に進んでいきたいと考えます。

本日は、介護の現場から日々の取り組みや専門的な研究の成果、更には、福祉を志し、勉学に励んでいる学生さんたちの研究発表が行われます。

また、本日は、講談師の神田京子様をお招きしての「特別講演」の開催や「老人ホーム入園者創作品展」を実施するほか介護用品等の展示ブースも多数設置しております。

ご来場の皆様には、これらを通して介護の仕事への理解を深めるきっかけとなれば幸いです。

それでは、只今から、第十六回埼玉県高齢者福祉研究大会、ならびに第五十二回埼玉県老人ホーム入園者創作品展を開催いたします。

【主催者挨拶】
一般社団法人埼玉県老人福祉施設協議会
会長 池田 徳幸



皆様 おはようございます。5年ぶりに本大会が開催できました。このように多くの方々にご参加いただきまして誠にありがとうございます。コロナウイルス感染症の影響で、これまでWEBでの開催となっておりますので、久しぶりの開催です。ブランクの影響により不手際があるかもしれませんが、なにとぞご容赦のほどよろしくお願いいたします。

また、本日はお忙しい中、埼玉県福祉部地域包括ケア局長の武井様、さいたま市福祉局長寿応援部長の兼山様、埼玉県社協事務局長の林田様にもご臨席を賜りましたこと、厚く御礼申し上げます。コロナ禍や物価高騰等の厳しい施設運営の状況において、様々なご支援をいただきましたこと、重ねて御礼申し上げます。

さて、コロナ禍での4年間、本当に大変でした。施設運営においては様々な制限を強いられたことと思います。これまで以上に埼玉県老施協の仲間や関係機関との連携のありがたみを感じたことはありません。特に埼玉県との連携でおこなわれた、施設がクラスターを起こした際に職員を派遣する互助ネットや在宅において介護者が感染した際、残された要援護者を受け入れるケアラー施設への職員派遣など、多くの施設が積極的に支援のために職員を派遣頂いたことは埼玉県の大きな強みであると考えています。このことは、本年年明け早々に発生した、能登半島地震においても同様です。3月以降、被災地へDWAT、被災施設、避難所へ多くの職員が人道支援として名乗りをあげていただきました。ありがたいことに先日、大野県知事より派遣施設へ感謝状をいただき、その功績をたたえていただきました。先週の台風10号や南海トラフ地震への危機など、自然災害への不安が高まっています。埼玉県老施協でも有事の際の被災状況の把握のための災害アプリを活用した訓練をここ数年実施しております。関係機関と連携して、有事への備えをさらに進めていきたいと考えております。

しかしながら、このような状況においても我々は施設・在宅のサービスを止めるわけにはいきません。制限される環境のもと、サービス向上や生産性向上のため、あるいは地域のために種々の取り組みを行ってまいりました。本日の研究発表においてその取り組みなどが発表されていますので、ぜひご参加ください。また、市民ホールにて老人ホーム入園者創作品展が行われています。絵画やちぎり絵、手芸や立体制作など素晴らしい作品が展示されていますのでこちらもぜひご覧いただけますようお願いいたします。

冒頭に申し上げましたように、久しぶりに皆様にお集まりいただいた大会です。有意義なそして楽しい時間となりますようお願いいたします。主催者挨拶と致します。本日はよろしくお願いいたします。

【来賓挨拶】

埼玉県福祉部
地域包括ケア局長 武井 裕之 様
(埼玉県知事 大野 元裕 様 代理)



写真 武井 裕之 様

本日は、第16回埼玉県高齢者福祉研究大会が、多くの皆様の御参加の下、このように盛大に開催されますことを、心からお喜び申し上げます。

池田徳幸会長をはじめ一般社団法人埼玉県老人福祉施設協議会の皆様には、日頃から本県の高齢者福祉行政に多大なる御理解と御協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

また、貴協議会の皆様には、本年元日に発生した「令和6年能登半島地震」により被災した高齢者施設への介護職員等の派遣に御協力いただいていることに心から感謝申し上げます。

さて、本県では、現役世代人口が減少する一方で、介護ニーズの高い85歳以上の高齢者人口が全国トップクラスのスピードで増加することが見込まれています。

こうした中、今年度から第9期埼玉県高齢者支援計画がスタートするとともに、介護報酬の改定や新たな加算制度の導入など、様々な制度改正がありました。加えて、物価高騰、感染症対応、介護職をはじめとする人材確保など、経営に直結する様々な課題に直面しています。

これからの高齢者福祉の現場は、ICTの導入による生産性の向上や外国人介護職員の受入れによる人材確保など持続的な経営基盤の強化が大きな課題になると考えています。

本日の研究大会は、「繋がるっていいね、介護の未来へ快GO！～みんなで紡ぐ思いやりの輪～」をテーマに、日頃高齢者福祉の最前線で取り組まれている職員や福祉の職を目指す学生の皆様の先進的な研究成果が多く発表されると伺っております。

本日の研究成果が、これからの高齢者が安心して暮らせる社会づくりに大きく寄与するものと期待しています。

結びに、本大会の御成功並びに貴協議会のますますの御発展と、御参会の皆様方の御健勝、御活躍を祈念いたしまして、挨拶とさせていただきます。

令和6年9月5日

埼玉県知事 大野 元裕 代読

【来賓挨拶】

さいたま市福祉局
長寿応援部長 兼山 和夫 様
(さいたま市長 清水 勇人 様 代理)



写真 兼山 和夫 様

本日は「第16回埼玉県高齢者福祉研究大会」が開催されますことに、心からお祝い申し上げます。本大会は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響もあり、令和3年の第13回大会から令和5年の第15回大会にかけてオンラインでの開催が続いておりましたが、今年度は、大宮ソニックシティにてこのように盛大に開催されること、大変嬉しく思います。

また、池田徳幸会長をはじめ、一般社団法人埼玉県老人福祉施設協議会の皆様には、日頃から本市の介護保険行政に御理解、御協力を賜り、厚く御礼を申し上げます。

本大会を久しぶりに現地開催するにあたっては、様々な御苦勞があったのではないかと推察いたします。重ねて御礼申し上げます。

さて、埼玉県老人福祉施設協議会様の令和6年度事業計画を拝見いたしますと、事業方針の中で、「地域包括ケアシステムの深化・推進」、「要介護状態等の軽減、又は悪化の防止に資するサービスの提供」、「処遇改善や生産性向上による職場環境の改善」の必要性を掲げていらっしゃいます。

特に、介護職員の処遇改善は喫緊の課題であり、他産業での賃上げ状況や物価の上昇が継続していることを踏まえれば、介護職員等の確保・定着のため、更なる取組が必要と認識しており、昨年度は九都県市を代表して、今年度はさいたま市単独で、国に対し、更なる処遇改善と、新規人材の確保や職場環境の改善、離職防止など実効性のある対策を早急に行うよう要望してまいったところです。

更には、昨日から開会しているさいたま市議会の9月定例会におきまして、市内のより多くの事業所が処遇改善加算を取得できるよう補正予算をお願いしているところです。予算が可決されましたら、処遇改善加算の取得促進に向けた説明会を開催するとともに、希望する事業所に対し、社会保険労務士を無料で派遣できるようにすることで、加算の取得に向けた相談体制を整えてまいります。

本市といたしましては、このような取組を通じて、介護職員の処遇改善に向けた環境整備に取り組んでまいりますので、埼玉県老人福祉施設協議会の皆様にも、在宅での生活が難しい高齢者にも安心して暮らしていただける、質の高い高齢者向け施設サービスの充実に、より一層取り組んでいただけたらと考えております。

結びにあたり、本日御参会の皆様方の益々の御活躍と御発展を御祈念申し上げ、私からの挨拶とさせていただきます。

令和6年9月5日
さいたま市長 清水 勇人 代読

【来賓挨拶】

社会福祉法人埼玉県社会福祉協議会
事務局長 林田 泰明 様
(社会福祉法人埼玉県社会福祉協議会
会長 山口 宏樹 様 代理)



写真 林田 泰明 様

本日は、埼玉県高齢者福祉研究大会にお招きいただきまして、誠にありがとうございます。

今年度、新たに会長に御就任された池田徳幸会長をはじめ、埼玉県老人福祉施設協議会の皆様には、老人福祉施設の運営及び諸課題の解決に向けまして、日々御尽力をいただいておりますことに、心から敬意と感謝を表する次第でございます。

また、日頃より、私ども埼玉県社会福祉協議会の事業の推進に多大なる御支援・御協力をいただいております。この場をお借りして厚く御礼を申しあげます。

本日の、埼玉県高齢者福祉研究大会につきましては、介護現場で働く職員の皆様の資質向上を目指し、平成19年に開始され、今年で第16回を迎えると伺っております。

長らく続いたコロナ禍を経て、5年ぶりにこのように多くの皆様一堂に会し、盛大に開催されますこと、大変喜ばしく思います。

本大会の運営委員の皆様をはじめ、会員施設の皆様の御努力に対しまして、改めて心から敬意を表する次第でございます。

埼玉県社会福祉協議会では、生活困窮者への支援といたしまして、全県的な社会貢献活動である「彩の国あんしんセーフティネット事業」を実施しております。皆様にはその推進の大黒柱として大変な御尽力をいただいておりますが、こちらも今年度、丸10年という節目を迎えます。来る11月22日には社会貢献活動10周年の記念式典を予定しておりますので、そちらにも足をお運びいただくと幸いです。

そして、就労支援や衣類バンク事業をはじめ、更なる事業の充実と会員拡大に向けまして、引き続き、御支援・御協力を賜りますよう宜しくお願いいたします。

さて、現在、高齢者福祉の分野では、特に介護人材の確保と定着が大きな課題となっております。貴会におかれましては、県や関係団体の皆様と共に、「介護職員しっかり応援プロジェクト」を推進され、若い世代に向け、介護現場の魅力を発信されるなど、積極的に活動されています。

本会といたしましても、地域就職相談会の開催や介護福祉士修学資金等の貸付事業に取り組み、ひとりでも多くの方を介護現場への就業に結び付けていくよう努めてまいります。

一方、国の動きを見ますと、「自立支援・重度化防止に向けた対応」や「良質な介護サービスの効率的な提供に向けた働きやすい職場づくり」などが、今年度の介護報酬改定に盛り込まれました。

こうした動向を注視しつつ、介護ロボットの導入・介護現場のDX化等についても皆様とともに取り組んでまいりたいと考えております。御理解・御支援・御協力を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

本日の研究大会では、様々な介護現場における、優れた研究成果が数多く発表されると思います。これらを共に学び、それぞれの職場で活かすことで、本県の介護の質の向上が図られることを大いに願っております。

結びに、本研究大会が実り多き大会となることを御期待申し上げますとともに、埼玉県老人福祉施設協議会の益々の御発展と、本日御参会の皆様の御健勝と御活躍をお祈り申し上げます。私の挨拶とさせていただきます。

本日は誠にありがとうございます。

社会福祉法人 埼玉県社会福祉協議会 会長 山口宏樹 代読

②特別講演

テーマ:『ぱぱん！と元気に！神田京子独演会～金子みすゞ伝 明るい方へ～』

講師:講談師 神田 京子 様



岐阜県美濃市出身。日本大学芸術学部放送学科卒業。在学中の1999年7月、二代目神田山陽に入門。2014年日本講談協会・公益社団法人落語芸術協会にて真打昇進。日本講談協会理事。スタンダードな講談会を重ねる一方で、「講談+α」の公演も各地で展開！講談の可能性を広げ続けていらっしゃいます。金子みすゞの詩と生き方を題材にご講演頂きました。



③研究発表

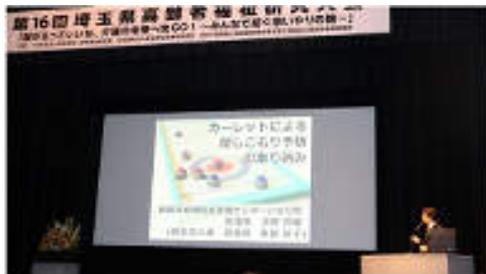
研究発表は、多くの方と共に高齢者福祉について学ぶ機会として、施設職員等が取り組む課題や実践報告と福祉の仕事をめざして学ぶ学生から、合計28題発表しました。

※研修発表参加施設名は、大会概要書に掲載しております。

発表会場を2会場に分け、各会場にて午前午後あわせて14題ずつ発表を行いました。

※第1会場…小ホール 第2会場…国際会議室

【第1会場の様子】



【第2会場の様子】



【研究講評】



日本介護福祉士養成施設協会埼玉県介護福祉士養成校連絡協議会
委員長 飯塚 洋一 様

発表者の皆様おつかれさまでした。今回発表されたいずれのみなさまも、わかりやすく、自信を持って発表されており、発表に「力強さ」を感じました。聞いている方にも共感を得る発表が多かったと思います。

今回の発表を聴いていて感じた事を2点ほどお話しします。一つは、着眼点が良い発表が多かったと感じました。介護現場での実践事例が多い中、職員の家族を施設に招く、地域支援等 個別ケアから施設の運営改善に関する事まで、視野が広く多様な視点を持って課題解決に挑んでいました。そして、課題解決を実施する際に、情報を集約し、現状把握を実施すると当初考えていた仮説と認識が違って、再度、実施方法を変更するなど視点を変えて方向転換をする研究発表もありました。これらの紆余曲折の活動をあきらめずに実施することで、当初の取り組みを深めて課題解決につながっていました。もう一つは、つねにエビデンスを探る努力をしている発表者が多かったと感じました。数値化はもちろん、国の認識の違いを対比、昨年と今年との時間経過による対比を図や画像を用いていました。この努力を惜しまず内容をまとめている発表は、聞いている側が理解しやすく、説得力があり高評価となっておりました。

施設の種別にもよりますが、介護の仕事は24時間365日業務があり、大変忙しい現場ではありますが、実践されたことをまとめ、プレゼンされたみなさまに敬意を表します。私は、介護の現場に関わる全ての皆さんがひた向きに、誠実にお仕事をされている崇高な職場と思っています。しかしながら社会では、大変できついなど職場環境が良くないイメージが先行しています。研究大会のように皆さんが現場で実践していることを言語に置き換えて世の中に「問う」ていくことが職業の社会的地位向上につながっていくと思っています。この努力を是非続けていってほしいと願っています。以上感想を述べて総括と挨拶に代えさせていただきます。

④埼玉県老人ホーム入園者創作品展

今年度 98施設 118作品

来場者にお気に入りの作品を見つけていただき、人気投票を行いました。投票数の多い上位3作品を表彰しました。

人気投票集計:297票

⑤閉会式・研究発表優秀賞賞状授与式

【閉会式プログラム】

- ①主催者挨拶
- ②研究発表(講評・賞状授与)
- ③作品展(表彰)
- ④閉会宣言



【研究発表賞状授与式】

研究発表は、審査員を設け、28題の研究発表の中から厳選なる審査を行い、優秀賞を4題選出しました。

	発表タイトル	施設名	発表者
1-7	D-Freeを使用し自律した排泄支援を目指して	特別養護老人ホーム杏樹苑爽風館	品澤 美幸
1-3	カーレットによる閉じこもり予防の取り組み	飯能市地域包括支援センターいなり町	清野 剛義
2-9	子どもに誇れる仕事をしよう！～ママパパ参観日への挑戦～	特別養護老人ホーム鴻巣まきば園	根岸 桃子
1-14	その人らしい生活を考える ～なおいさんの生活～	秋草学園福祉教育専門学校	嘉勢 由希江



①企画・運営委員会 委員紹介

企画・運営委員会

No	主催・共催団体	氏名	所属
1	担当副会長	高木 輝久	春輝苑
2	地域福祉委員長	内田 亘幸	草加園
3	地域福祉副委員長	釜田 幸弘	蕨サンクチュアリ
4	地域福祉委員	吉田 あつみ	光の丘
5	地域福祉委員	小野塚 由美子	真寿園
6	地域福祉委員	堀越 美稚子	川口みやびの郷
7	地域福祉委員	栗原 基	草加キングス・ガーデン
8	研修委員会委員長	大野 裕明	むさしの園
9	研修委員会	設楽 敬三	青空
10	地域福祉委員	馬場 裕史	あきやま苑
11	総務委員会	西川 留美加	ブロン
12	21世紀委員会	神谷 敏弘	晴和苑
13	養成校連絡協議会	飯塚 洋一	埼玉福祉保育医療専門学校
14	浦和大学	岡田 圭祐	浦和大学
15	埼玉県社会福祉協議会	森田 清司	施設福祉部